

【出張型授業】小学校第6学年 道徳指導案

(1) 題材 ある犬のおはなし

(2) ねらい 犬の殺処分数減少への取組の在り方を、〈飼育者の責任・愛情〉〈問題対処〉〈動物福祉行政〉〈教育〉等に注目することから捉え、犬猫等の命の大切さに気づくとともに、尊重する心を養うことができる。

(3) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 保護犬とふれあい体験する。その他動物とのふれあい体験等も含め感想を出し合う。</p> <p>2 県内の犬猫の殺処分の数値を知る。</p> <p>3 「ある犬のおはなし」のスライドを視聴する。 ○6年生が朗読(読み聞かせ)に参加する。</p> <p>4 「ある犬のおはなし」の感想を出し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">この犬のおはなしについて、どう思うか</div> ○犬がかわいそう。 ○悲しくなる。 ○飼い主も寂しそう。何か仕方ない理由が・・・。</p> <p>5 次の課題について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">こんな悲しい犬を少なくするにはどうしたらいいのか</div> ○犬の気持ちを深く考える。 ○犬を飼う前によく考えたり協議したりする。 ○犬の現状や課題を調べ、よく知る。 ○仕方ないなら、新聞やSNSで引取者を探す。 ○命の大切さを、教育やTVで知らせる。 ○国や県は動物を愛護する取組を進める。 ○国や県が法律等をつくればいい。</p> <p>6 課題に対する自他の考えを見直す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">飼い主の心が変われば、悲しい犬は無くなるか。</div> 〈無くならない〉 ○飼主にもどうしようもないことが生じる。 ○これまでも無くならなかった。 〈無くなる〉 ○飼主やこれから飼う人へ教育すれば。 ○法律を一人一人に知らせれば。 ○動物愛護センターに相談する(譲渡)。</p> <p>7 これからの自分の在り方について出し合う。</p>	<p>○保護犬とふれあった感想を出させ、その良さを意識付けする。</p> <p>○犬の良さが多く語られたところで、県内の犬猫殺処分数を提示する。</p> <p>○殺処分数の多さに驚いたところで、犬の立場から創られたスライドを視聴させる。</p> <p>○感じたことを素直に出させる。</p> <p>○実際に犬猫を保健所に持ち込んだ児童が居ることも考えられるので、そこは配慮して、場づくりをする。</p> <p>○〈飼育者の責任〉〈問題対処〉〈動物福祉行政〉等に注目した考えが出されることが推測されるので、共通点、相違点が明らかになるよう、板書に位置づける。</p> <p>○飼い主への避難に意見が集中したときは、重篤アレルギーや動物不可の転居等の例を示し、考えさせる。</p> <p>○仕方の無い状況が生じたときの対処方法としての経験を尋ね、無いときは動物譲渡案内に関する新聞記事を提示する。</p> <p>○高学年とはいえ、法律や行政等に注目できにくいことも考えられ、その際は授業者側から資料を示す。</p> <p>○飼い主としての自覚・責任に対する意見が多く出された時は、その視点からの見直しを図る。(意見の集中度で、「見直し」の問いを提示する。時間考慮等で省くこともある。)</p> <p>○当センターは平成31年開設であるので、その特性等も示し、考えの一助とさせる。</p> <p>○子どもの考えをまとめ、板書をもとに、本時を振り返らせる。</p> <p>○本時の感想・今後の自己の在り方を述べさせる。</p>	<p>○殺処分数値の資料</p> <p>○プロジェクター、パワーポイント資料</p> <p>○黒板が無ければ、可動式ホワイトボード準備。</p> <p>○新聞記事</p> <p>○動物愛護法改正</p>

(5,6年)「生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」